



シルエットフォーミュラと並んで走るノーマルのRX-7の姿は迫力に欠けてしまうものだ



マフラーをはずしたロータリーは独特のサウンドをかもし出す



ヘアピンのイン側からみたグループ5マシンのサバンナRX-7。注意すべきことは、ほとんどロールをしないクルマの安定性、それとニュートラルなステアリング性は、やはり純レーシングカー。

ガッツでゼロヨンイベントに 赤池卓

朝早くからトラックにマシンを積んでやって来た熱意は買いたいな。とにかくガッツがある。しかし、ルールは絶対に守ってもらいたい。0-400mは社会のルールを守ってやるべきだ。きょうはそれを教えにきたんだ。

みんなクルマには人に負けない情熱を持ってるんだから、きょう集まった連中が中心になって、0-400mもイベントにしてゆくべきじゃないかな。アメリカや東南アジアでも0-400mはイベントとして盛んなんだ。きょう集まった連中はガッツと情熱があるんだから、そうすべきだよ。

レースにはカネがかかると言うが、それは誤解だよ。みんないい車にカネをかけてるじゃないか。カネの使いみちをまちがってると思う。年間100万円クルマにかけるんだったら1レースや2レースは出れるし、安いレースなら5レースは参加できる。とにかく、みんなのガッツでイベント化することだと思う。



第1コーナーでの3.2fのZのコーナリングシーン、荒井クン、インがいているゾ

